



皆龍寺報 とびら

2021年1月1日(金)発行

第40号

真宗大谷派 皆龍寺
山形市大字門伝100
TEL 023(643)3037
http://kairyuji.mydns.jp/

人類の危機

二十一世紀という時代(十五)

「もし今後数十年で1000万人以上が死ぬことがあるとすれば、最も可能性が高いのは戦争ではなく感染力の非常に高いウイルスだろう」これは五年ほど前にビル・ゲイツが発言した言葉だ。そして今、世界中新型コロナウイルスによって混乱の危機にさらされている。

人間は、互いに助け合い協力しあって生きている。仕事も巡りめぐって相互扶助の関係を構成する。だから仕事に上下関係はない。しかし時折、相互扶助の関係を忘れてどこかの会社を倒産に追い込んだり、会社の利潤追求のみに走り、余裕がありながら従業員を切り捨てたりもする。また、人間は時には自分の欲望のために人を殺したりもする。

国は、国民の安全・安心を守るために、国土を整備したり国民の生活の保障を履行したりしてくれる。しかし時には権力者が自分のために国有財産を流用したり、自分の仲間だけに融通をつけたりもする。

あるいは「国のために死ぬ」といつて殺し合いにかり出したり、「国を守るためには少々の犠牲は仕方がない」といつて人間を切り捨てたりもする。

恵みと被害は紙一重。だからこそ、この事にしっかりと目を据えて注意していかなければならない。

例えば、この「コロナ禍と戦争はどこか似ている。戦争の好きな人はどこにもいない。しかし国同士の違いから憎しみあい恨みあって、どこからともなく戦争を望む心理が生まれてくる。それを人間の理性で打ち消せばいいものを、まるでコロナのクラスターのように国民に広まっていく。かつて止めることができなかったあの戦争も、日本国民を蝕んだニクシミクラスターだったのだから。

ただ人間に誠意があれば、いかなるクラスターをも乗り越えることができると、私は信じている。

住職 記

2021年

皆龍寺年間行事

(コロナ禍の状況によって中止もあり得ますのでご了承ください)

1月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 皆龍寺】
2月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 皆龍寺】
3月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 皆龍寺】
4月13日 (10時~15時)	永代経	【お当番 新屋敷・柏倉組】
5月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 悪戸組】
6月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 門伝上中組】
7月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 皆龍寺】
8月13~15日	孟蘭盆会	
9月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 門伝下新屋敷組】
10月25日 (11時~13時)	お講	【お当番 荻ノ窪組】
11月13日 (10時~15時)	報恩講	【お当番 村木沢組】
12月31日	除夜の鐘	修正会

後記

昨年、年の始めからコロナウイルスが大流行し、大変な一年となりました。いつまで続くのだろうと不安があります。諸行無常。何事も遷り変わる事を思えば、いつか終息してくれるのだろうと、希望が持てるように思います。その為には、「自分が感染していたら、人に移してしまいかもしいない」という思いやる利他の心が大切なのでしょう。

副住職 記

真宗の教え 19

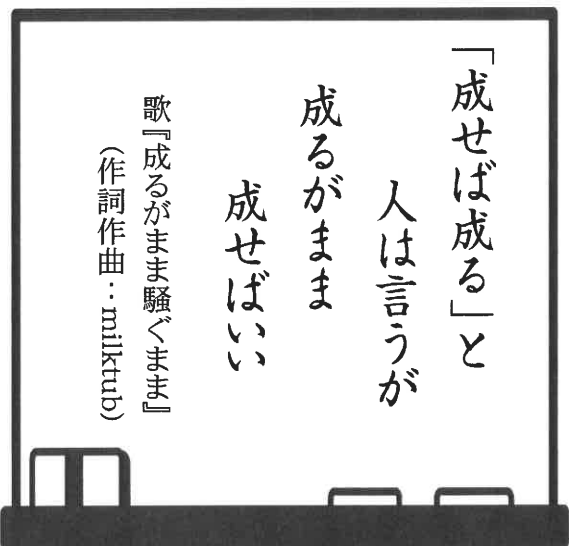
真宗のご本尊は阿弥陀如来である。阿弥陀如来は人間が、いやすべての生き物が誕生するよりもずっと以前に生まれ、すべて生きている者の救いをずっと考えておられた如来様であるといわれている。

裏を返せば、生きる者すべてが苦しんでいるという事を物語っている。いうまでもなく人間もすべての人が苦悩に満ちているという事だ。でも、苦悩を感じることは少ない。ほとんどが幸せを感じ、楽を感じながら生きています。

ならば人間の苦悩とは何か。それは真実に照らされた虚偽に他ならない。その虚偽に気付かない間は、苦悩を感じない。人間の虚偽性に気付いた時苦悩するのだ。それは真実を

求めている心の喘ぎなのだ。また「阿弥陀如来は如より来生して報・応・化種々の身を示し現れたもう」と説かれている。これは、阿弥陀如来はいろんな資格好になって私たちの前に現れてくるという事である。

法語黑板



想像してください、すべてが上手いく人生を。なかなか上手いくかないのが人生

私たちのまわりで、私に真実を教えてくれる人や出来事などがたくさんある。これに謙虚に聞き、そして虚偽に惑わせられない勇気をもつ。その人は阿弥陀如来を信じる真宗門徒と呼ばれる人なのである。

住職記

なのに、上手いくと思っっているから苦悩する。そんな人生だからこそ、上手いくった時の喜びは、ひとしおなのでしよう。想像してみれば、すべてが上手いく人生なんてつまらない。何も起こらない物語がつまらないように、ハプニングは人生を生きる重要なエッセンスなのでしよう。

「成るがまま」を受け入れたときに、自分がした失敗も、つらい日々も、「物語」の為の重要な要素になるのだと思います。 副住職記

皆龍寺サンガスクール

暮れに大雪が降りました。 次の日の午後、土曜日に予定の誕生ケーキを注文するために、新清堂さんへ行った帰り道、とてもすてきな小学一年生の女の子二人に出会いました。

「きのうすべり台を作ったけど、途中でだから宿題を早く終わして続きをするの。私達ね、雪が大好きなの。」 「おばあちゃんもね、暖かい雪の降らない所で生まれたから、今も雪が大好きなのよ。」と、会話をして別れましたが、まっ白なこの子達に触れた想いで、ある中一女子のことは思い出しました。

サンガスクールの学習塾で土曜日にかけている高三女子が、中一女子二人が食事をしているそばに立って、「私が作った料理はどうですか。」と聞いているのです。

「とってもおいしいです。」 と答える中一女子二人と会話が弾んでいます。

『あれ、高三女子は中一女子の二人

が、にがて」として、逃げていたのに。」と不思議に思っ、後日中一女子にきいてみました。その答えは、「私ね、〇〇ちゃんの方が年上なのに年下のような態度をとっていたんです。でもそれは間違っている気がついて、先輩として声を掛けるようになったら、〇〇ちゃんと普通に会話できるようになったんです。」でした。 青色青光、黄色黄光、赤色赤光、白色白光を体現している、このほけの子たちとの出会いによって私が、「本願力にあいぬればむなしくすくるひとぞなき」の世界に住することができるのでしょうか。

「功德の宝海みちみちて煩惱の濁水へだてなし」 素敵な世界が皆龍寺サンガスクールの中にもあります。

追記

この度、サンガスクールに多額のお布施をいただきました。お礼状を高校生スタッフが書いてくれました。

坊守記

女のつどい

一昨年の夏には東本願寺に行って帰敬式を受けてきました。とても貴重な体験ができたので、今年は後輩たちを連れて行きたいと思っ、いきましたが、コロナの影響で行けなかつたので残念です。

例年の活動案通りの活動が難しい年でした。でも会員の皆様の皆龍寺を私が支えなくては」との想いがひしひしと感ぜられる一年でした。お陰様で、無事永代経と報恩講を勤めさせていただきました。参拝の皆様、例年の「银杏ごはん」はいかがでしたか。今年も二月七日(日)の新年会から活動予定です。御一緒に聞法しましょう！

坊守記